

IV 外国語活動 2年次の成果と課題

1 成果

(1) よりよいコミュニケーションに向けて、即興的な要素を含んだ伝え合う授業づくり

日々の授業実践の中で、その場で考えて話す活動を積み重ねてきたことにより、目的や場面、状況に応じて、相手に自分の考えや思いを分かってもらうためには、どのような内容や言語材料（語句・表現）を選んで表現したらよいかを子ども自身が考えながら、学びを深める姿が見えてきたことが成果である。

よりよいコミュニケーションにつなげていくためには、コミュニケーション（言語活動）の目的や場面、状況に応じて子どもが伝えたい内容を考え、それまでに慣れ親しんだ語句や表現から、できるだけ適切なものを選んで選ぶという「見方・考え方」を働かせながら、何度も自分の考えなどを形成、再構築していく必要があると考える。

6年「留学生とふるさと紹介をしよう」の学習で交流会を行った際、お互いのふるさと紹介をしながら疑問に感じたことを自由に質問したり、語句や表現の自由度を広げながら即興的に会話をしたりする場を設けた。その結果、最初に考えていた紹介文の順を変えたり、修正したりして、紹介する内容や表現を調整している子どもの姿が見られた。また、子どもたちはどの語句や表現を活用すれば相手に伝わるのかを常に考えながら会話をしている姿が見られた。その場で考えて話す活動（即興的なコミュニケーションの場）を保障したことで、よりよいコミュニケーションに向けて主体的に学びを深める子どもの姿へとつながった。



(2) 子どもが主体的に「見方・考え方」を働かせるための、単元構成の工夫

外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」を働かせるための手立てとして、1点目に外国語や異文化との出会いを大切にしたい場を設定したことが成果である。

授業実践を通して、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目する「見方・考え方」は、子どもたちが新しく出会う外国語や異文化について、「なんだろう」「知りたい」という気持ちを表すときに、それまでに体験・習得した概念（知識）を基に働くものであったと考える。ALTや留学生、デジタル教材や子どもたちにとって身近な世界の事柄や人物などを効果的に活用し、外国語や異文化の出会いを大切にしたい。

2点目に、十分な慣れ親しみ（インプット）を単元計画の中で大切にしたいことである。

コミュニケーション活動において、子ども自らが自分の考えを形成し、再構築していくためには、言語材料の引き出しが必要不可欠である。単元の終末で、これまでに慣れ親しんだ語句や表現を活用して、自分の考えを表現する変容が見られたのは、1単位時間毎のインプットやインテイクの場が十分に保障されていたからだと捉える。

2 課題

子ども自身が英語での会話をしながら自分の考えを修正し、よりよいコミュニケーションに向けて自ら改善していく省察の在り方

子どもが相手と英語を話す中でどのように伝えたらよいかを考え、コミュニケーションを図りながら個の省察が深まるような授業づくりの工夫が必要である。

本校外国語活動の2年次の研究では、タブレット型端末を用いながら、英語での発表の様子を録画し、よりよいコミュニケーションに向けて省察を行う場を設けた。普段、私たちは自分自身が英語を話す姿を見る機会は少ない。そのため、タブレット型端末の録画機能を活用することで、自分の英語を使う姿を客観視できるのではないかと考えた。実際に授業の中でタブレット型端末の録画する手立てを講じたことにより、表情や声の大きさ、自分の考えや気持ちなどを聞き手に分かりやすく整理して伝えるために足りない部分や、大事な部分を子ども自らが実感し、自分自身を客観視することで、よりよいコミュニケーションにつながることに気付いた。しかし、録画を用いた省察だけでは、英語を使って子ども同士が「対話」をするインタラクションの機会が減ってしまい、仲間と関わり合う中で、コミュニケーションの楽しさを味わえることには課題が見られた。

そのためにまず、相手と関わりながら、自分の考えや思いを英語で伝え合えるような場面設定をより授業づくりの中で意識していく。今、自分が知っている語句や表現を最大限に活用し、相手に伝えたいことが伝わった経験や、相手の話していることを理解することができた瞬間、英語を使ってコミュニケーションを図る楽しさをより実感することができる。また、その試行錯誤をしながら思考を深めている場面が、「見方・考え方」を働かせている状況でもあり、同時に個の省察から深い学びへとつながるものと考えている。